

# 令和 8 年度 予算説明書



守谷市



〔教育委員会 生涯学習課 所管〕

03020111 児童クラブ運営事業

予算書P. 116

(単位:千円)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	376,936	366,488	10,448	
国庫支出金	61,452	51,797	9,655	子ども・子育て支援交付金(放課後児童健全育成事業)
県支出金	61,452	51,797	9,655	子ども・子育て支援交付金(放課後児童健全育成事業)
地方債	0	0	0	
その他	54,533	52,680	1,853	児童クラブ入所負担金
一般財源	199,499	210,214	△ 10,715	

【背景(なぜ始めたのか)】

共働き家庭の増加する中、就労支援対策として、平成4年9月仲町(現守谷小学校)児童クラブの開設をスタートに、平成5年に北守谷(現御所ヶ丘小学校)児童クラブ、平成7年に南守谷(現松ヶ丘小学校)児童クラブを開設し、平成8年度から平成12年度までの間に全小学校に児童クラブを開設した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

放課後帰宅しても、就労などにより保護者が日中家庭にいない小学生を対象に、安全・安心な居場所を確保し、保育の質の向上に努め、保護者の就労を支援するとともに、児童の健全育成を図る。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

公設クラブは民間事業者に運営を委託し、小学校内の専用室で児童を預かり、放課後子ども教室と連携して一体的な活動プログラムを提供する。黒内小学校の児童増加に伴う特定地域選択制度や学校の適正配置計画に対応し、公設及び民設クラブの支援、部屋数の確保により待機児童ゼロを継続する。また、公設クラブの新設や大規模改修は、財政面の抑制が求められる中で難しい現状にあり、持続可能な運営体制の確立が課題である。これに対応し、既存の学校施設を放課後に有効活用する「タイムシェア型」の施設利用を推進し、安全かつ効率的な放課後の居場所づくりを進めていく。

1. 公設児童クラブ

[運營業務委託] (株)アンフィニ

[委託期間] 令和7年4月1日～令和12年3月31日5年間

2. 民設児童クラブ

[運営補助対象] (株)ウェルビー、(社)明岳会、(株)こどもbeing

[補助期間] 令和8年4月1日～令和9年3月31日 単年



児童クラブ室の様子



室内遊びで作成した子どもたちの作品

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	14,190	7,203	6,987	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	14,190	7,203	6,987	

#### 【背景(なぜ始めたのか)】

市民が行う芸術文化活動の自主性・創造性を尊重し、その活動を促進するとともに、各団体等の相互の連携・協力の機会提供を通して、担い手の育成及び市における総合的な芸術文化振興の推進を目指して開始した。

#### 【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民やサークル・団体等に芸術文化活動の発表の機会を提供するとともに、昭和52年に設立された「守谷市文化協会」に対する補助事業、県主催のアーカスプロジェクトへの参画や守谷市美術作家展の開催を通して、市民が身近に芸術文化に触れることができる環境の充実を図る。

#### 【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

##### 1. 守谷市芸術祭(市文化協会と共催)

もりりん中央(中央公民館)を主会場に、美術展、若い芽のコンサート、ふれあい茶会、芸能祭を開催する。

##### 2. 守谷市美術作家展(年1回)

市民交流プラザギャラリーを会場に、郷土に根付く美術作家による作品展を開催し、芸術鑑賞の機会を提供する。

##### 3. 市文化協会の活動支援

補助金を支出することで、芸術文化活動を通して、市の発展と市民の文化交流に努める市文化協会の活動を支援する。また、令和8年度は「小中学生美術展」をはじめ、50周年記念事業の開催を支援する。

##### 4. アーカスプロジェクトへの参画(事務局：県)

高野小学校への移転に伴い、負担金を支出することで環境整備と制作支援を行う。これにより、アーティスト・イン・レジデンスの活動発表会や市民向けアートイベント(地域プログラム)に加え、学校と連携したアートプログラムを実施する。



美術作家展ギャラリートーク



招へいアーティストとアーカスボランティアの交流

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	89,793	70,154	19,639	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	9,481	9,070	411	運動部活動地域連携再構築委託金
地方債	0	0	0	
その他	8,502	10,094	△ 1,592	教育文化振興基金繰入金
一般財源	71,810	50,990	20,820	

【背景(なぜ始めたのか)】

平成30年3月、国から「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が示され、地域との連携を含む学校部活動の見直しが言及された。これを受け、県が策定した「部活動の運営方針」をもとに、令和5年1月から休日の中学校部活動地域移行等に向けた実証事業を開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

国(スポーツ庁・文化庁)が示す令和5年度から令和7年度の改革推進期間内を目途に、教職員の働き方改革を推進するとともに、子どもたちがスポーツ・文化等、一人ひとりのニーズや志向に応じて活動を選び、自主的・自発的に参加でき、安全・安心に活動できる環境づくりを進める。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

中学校の休日部活動の管理・運営を一般社団法人守谷市スポーツ協会に委託し、全54部活動の半数を目標に地域連携を推進することで、生徒がより充実した活動を行える環境の整備を目指す。

地域クラブ活動の推進や休日の学校部活動における地域連携の強化を図るとともに、地域クラブ認定制度や各種支援制度、クラウドファンディングを通じた資金調達の仕組みなどを活用し、誰もが参加しやすい環境を構築する。関係機関一体での推進体制も構築し、部活動の地域展開を実現する。

[守谷スポーツ・文化クラブ(MSCC)登録指導者による休日指導] 25部活動(令和8年1月現在)



休日の地域指導者(MSCC登録)による活動

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	56,279	56,298	△ 19	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	13,143	21,592	△ 8,449	放課後子供教室推進事業費補助金
地方債	0	0	0	
その他	5,350	5,816	△ 466	放課後子ども教室事業保護者負担金
一般財源	37,786	28,890	8,896	

## 【背景(なぜ始めたのか)】

子どもたちに関わる重大事件の発生等の青少年の問題行動の深刻化、地域や家庭の教育力の低下等の課題に対応し、心豊かでたくましい子どもを社会全体で育むため、地域の方々の協力を得て、平成19年度から小学校の教室等を活用して子どもたちが安心して活動できる居場所を提供している。

## 【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

小学校の施設を活用して、地域住民の参画を得て、子どもたちに安全な放課後の活動場所を提供する。子どもたちの自主的な活動(学習・遊び等)を通して、幅広い世代との関係を構築し、豊かな放課後の環境づくりを推進する。

## 【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

運營業務を民間事業者へ委託し、児童クラブと一体型の運営を行う。小学校の校庭・体育館・特別教室等を活用し、プランマネージャーを中心に放課後子ども教室支援員及び地域ボランティアが連携して学習や体験・交流活動等の場を提供する。

また、早朝の子どもの居場所づくり事業や放課後チャレンジ教室事業(専門的な学び)の新規導入など、モデル校による1年間の実証事業を進め、本格導入を検討する。

[運營業務委託] (株)アンフィニ

[運営委託期間] 令和7年4月1日～令和12年3月31日5年間



放課後チャレンジ教室プレ事業(スナッグゴルフ教室)



放課後子ども総合プラン作品展

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	8,334	8,182	152	
国庫支出金	3,221	3,209	12	第2世代交付金
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	2,810	3,313	△ 503	ふるさとづくり基金繰入金
一般財源	2,303	1,660	643	

【背景(なぜ始めたのか)】

文化財保護法の規定により、昭和52年に守谷市文化財保護条例を制定し、先人からの優れた遺産である文化財を適切に保護・活用し、未来に伝えていくこととした。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市内に存する有形無形の文化財を保護し、未来に伝えていくとともに、文化財愛護や郷土理解の心を育む。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

文化財保護審議会の答申に基づき、市内の文化財調査に取り組み、特に価値の高いものについては、指定や記録保存等の措置を講ずる。

市指定史跡や天然記念物については、保護・保存・維持管理を行うとともに、埋蔵文化財の所在が見込まれる土地で土木工事が行われる場合には、事前に試掘調査を行う。

また、文化財のデジタル化の推進や、キッズページの利活用の促進により、デジタルミュージアムのコンテンツの充実を図るとともに、文化財を知る講座等を通じて、あらゆる世代が郷土の歴史・文化に親しむ機会を創出する。



文化財保護審議会研修(県調査見学)



歴史満喫ロゲイニング スタート前説明

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	148,908	155,459	△ 6,551	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	666	592	74	公民館貸付料
一般財源	148,242	154,867	△ 6,625	

## 【背景(なぜ始めたのか)】

市民のコミュニケーションおよび生涯学習の場を提供するため、昭和56年に中央公民館、平成4年に郷州公民館、平成8年に高野公民館、平成11年に北守谷公民館を開館した。

平成24年度からは指定管理者制度を導入し、民間事業者の有するノウハウを活用した施設の管理運営を開始した。

## 【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

多様化・高度化する市民の学習ニーズに対応し、幅広い年齢層に学習機会を提供するとともに、利用者が安全かつ快適に学習・趣味活動を行える場を提供する。

指定管理者による管理運営により、市民ニーズに効果的かつ効率的に対応し、民間能力の活用とサービス向上を図る。

## 【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

指定管理者の持つ民間ノウハウやアイデアを生かし、利用者や地域住民との連携を重視しながら、地域特性を生かした事業展開を通じて、生涯学習とコミュニティの拠点形成を推進する。

指定管理者による施設の管理運営については、適正かつ確実に安定的・継続的なサービスの提供状況を確認するため、月次報告の提出、現地調査、管理運営状況の評価等を含むモニタリングを実施し、必要に応じて改善に向けた指導・助言を行う。

引き続き、公共施設予約システムの利用を促進し、利用者の利便性向上を図る。

[指定管理者] 特定非営利活動法人日本スポーツ振興協会

[指定期間] 令和7年4月1日～令和17年3月31日 10年間

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	19,514	0	19,514	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	19,514	0	19,514	ふるさとづくり基金繰入金
一般財源	0	0	0	

## 【背景(なぜ始めたのか)】

高野公民館は平成8年の建築以来、地域に充実した生涯学習の場を提供してきた。しかし、築30年が経過し、施設・設備の老朽化により運営に支障を来すことが懸念されることから、「守谷市公民館個別施設計画」に基づき改修工事を実施する。

**【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】**

利用者が安全に安心して使用できるよう施設・設備の改修工事を実施し、快適な学習活動や趣味活動の場を提供する。

**【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】**

令和4年度の劣化度調査及び令和5年度の建築基準法第12条に基づく定期調査の結果に基づき、全面改修工事を実施することから、令和9年度下半期からの改修に向けた実施設計に着手する。

10050104 市スポーツ協会補助事業

予算書P. 238

(単位:千円)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	29,759	20,000	9,759	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	29,759	20,000	9,759	

**【背景(なぜ始めたのか)】**

市民がスポーツに親しむことができ、技術の向上、健康増進と地域の親睦・融和を図るための組織として、昭和43年に設立された「守谷市体育協会」(令和3年4月、法人化により「一般社団法人守谷市スポーツ協会」に組織変更)に対する補助事業として開始した。

**【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】**

市民の健康増進と体力向上のため、各種運動競技の普及発展と競技力向上を目的に活動する市スポーツ協会の自主的な事業を支援し、市民交流とスポーツ活動の推進を図る。

また、市が主催するスポーツ大会やイベント等の業務委託、事業協力など体制強化を図る。

**【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】**

市スポーツ協会の組織体制及び事業実施体制の整備を支援するため、補助金を交付する。協会が雇用する事務局職員が中心となり、民間助成事業の活用や収益事業の拡大を通じて自主財源確保を推進することを期待する。これにより、市全体のスポーツ団体を統括する組織として協会の運営基盤強化を図り、その自立を促進する。

中学校部活動地域展開に関する業務を監督するとともに、スポーツ振興の核となる人材の発掘・育成、持続可能なスポーツ環境の整備といった協会の取り組みを支援する。これらの支援を通じて、市民一人ひとりがスポーツを通して生涯にわたり心身を充実させ、地域社会づくりに積極的に参画できる人材の育成と、活力ある地域づくりに貢献することを期待する。

[部会数] 23部会 (令和8年1月現在)

[事務局職員体制] 事務局長1名、他職員6名

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	5,523	4,192	1,331	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	0	0	
一般財源	5,523	4,192	1,331	

【背景(なぜ始めたのか)】

青少年の健全育成と少年期におけるスポーツの楽しさを教えるため、昭和57年に設立された「守谷市スポーツ少年団本部」に対する補助事業として開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

各種競技の普及・発展、競技力向上と各少年団間の交流を目的に活動するスポーツ少年団本部の自主的な事業を支援し、青少年健全育成と児童の体力向上に寄与する。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

補助金を交付することで、スポーツ少年団本部が部会単位で開催する各種スポーツ大会や技術講習会等の運営費及び守谷市の代表として出場する全国大会等遠征費を助成する。

また、市内及び近隣自治体スポーツ少年団との交流会を実施することを支援し、単位団相互の交流と親睦を深めるとともに、子どもたちの体力・精神面の健全な発達と集団の中での協調性を養うことを目指す。

[スポーツ少年団数] 21単位団 (令和8年1月現在)



大会・練習試合等の様子

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	3,080	3,680	△ 600	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	0	140	△ 140	
一般財源	3,080	3,540	△ 460	

【背景(なぜ始めたのか)】

国(スポーツ庁)が推進するスポーツによる地域活性化施策と連携し、市民生活の質の向上や健康増進、さらに、地域の特色を活用した交流の創出を狙う取組を充実させることを目指して開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

市民のスポーツ・運動習慣定着化の促進及び個々の適性やライフステージに応じたスポーツの機会提供を行うとともに、市スポーツ協会や近隣自治体等との連携により、スポーツ推進体制の強化を図り、スポーツによる地域活性化に持続的に取り組む。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

1. 各種スポーツ大会

市スポーツ協会に委託し、軟式野球大会、バドミントン大会、バレーボール大会、バスケットボール大会、ソフトテニス大会、テニス大会、ソフトボール大会、グラウンドゴルフ大会、卓球大会を開催する。

また、2019年茨城国体を記念し、常総市・坂東市と共催で茨城県中学校ハンドボール大会を実施する。

2. スポーツ教室

幼少期の子どもたちの動作・技能やコミュニケーション能力を育む親子向け遊びプログラムを提供するとともに、専門指導者による走り方教室や投げ方教室を開催し、子どもの体力・身体機能の向上を図る。

3. 企業・団体等との連携・協力

ヤクルト球団による投げ方教室など、企業・団体等と連携した多様なスポーツ体験プログラムを推進する。小学校巡回型の出前授業として子どもたちに多様なスポーツ体験を提供し、スポーツへの興味・関心を高め、心身の健全な発達を促し、地域にスポーツを広げることを目指す。



走り方教室



あそびバ(親子で運動遊び)

	新年度	前年度	差	主な名称
事業費	8,000	8,000	0	
国庫支出金	0	0	0	
県支出金	0	0	0	
地方債	0	0	0	
その他	6,400	0	6,400	スポーツ振興くじ助成金
一般財源	1,600	8,000	△ 6,400	

【背景(なぜ始めたのか)】

マラソンを通じて市民相互の交流と、市の知名度向上を図るため、昭和59年から実施している大会に対する補助事業として開始した。

【目的及び期待する効果(誰(何)をどうしたいのか)】

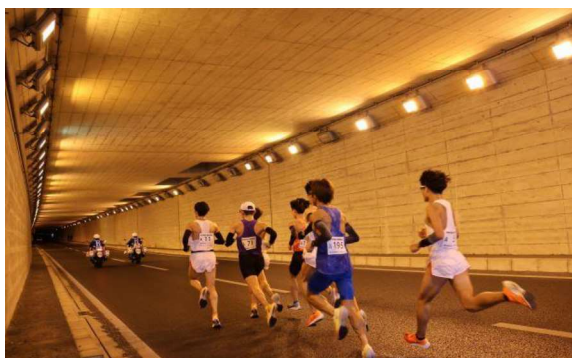
「守谷ハーフマラソン」への参加により、幅広い年齢層の人々に健康増進をもたらすとともに、全国から訪れるランナーや関係者等に守谷市の素晴らしさをPRする。

また、大会運営に多くのボランティアが参加しており、市民相互の交流を深める機会になっている。

【内容(何の業務活動をどのような手法で行うか)】

本大会は、市・市教育委員会・市スポーツ協会・茨城陸上競技協会が主催し、関係団体で構成する実行委員会が主管する。市補助金、参加費、企業協賛金に加え、スポーツ振興くじ助成金などの民間助成金を活用して開催し、全国から参加者を募集する。日本陸上競技連盟公認コースを使用し、茨城陸上競技協会公認のハーフマラソン及び5km、さらに小中学生対象の1マイルレースを実施する。

運営は、市スポーツ協会会員や市民ボランティアなど約800名の係員が携わり、全国から訪れるランナーに「また参加したい」と感じてもらえる大会を目指す。



守谷トンネル内(10km・15km地点)での激走